

# 令和4年度 那須塩原市議会「志絆の会」 行政視察報告書



視察地 : 熊本県熊本市  
視察日 : 令和4年7月12日(火)  
視察内容 : 熊本地震災害復興事業について

視察地 : 福岡県みやま市  
視察日 : 令和4年7月13日(水)  
視察内容 : 新電力みやまスマートエネルギーについて

視察地 : 熊本県山都町  
視察日 : 令和4年7月14日(木)  
視察内容 : 白糸第一自治振興会のむらづくりについて

【参加者 : 眞壁 俊郎 鈴木 伸彦 小島 耕一 金子 哲也】

テーマ 災害の復興事業について  
視察地 熊本県 熊本市  
視察日 令和4年7月12日(火)  
報告者 鈴木 伸彦  
案内者 熊本市政策局 政策部 政策企画課  
西尾晃一 主査



### 1. 視察動機

熊本市が被災した、平成28年(2016年)4月14日および16日発生した熊本地震は、わずか28時間の間に最大震度7が2回、震度6の地震が5回、余震の累計は4,000回超となる観測史上初の大災害であった。

あれから6年が経ち、熊本市はどのような取り組みをし、現在どのような課題があるかを伺ってきた。

### 2. 市の概要

- 1)人口 736,329人(令和4.4.1現在)
- 2)面積 390.32km<sup>2</sup>
- 3)都市形態 消費型都市
- 4)一般会計 379,100,000千円
- 特別会計 226,447,587千円
- 企業会計 86,200,064千円
- 合計 691,747,587千円

### 3. 災害の概要

#### (1) 人的被害

死者88人 負傷者772人

#### (2) 避難所・避難者数

避難所267カ所(最大)、避難者数110,7502人(最大)

#### (3) 住宅・宅地

住家被害 136,685件、  
宅地被害 7,200戸

#### (4) 被害状況(ライフラインの状況)

水道 最大約326,000戸 断水  
電気 約278,400戸 停電

ガス 約100,900戸 供給停止

### 4. 発災直後の状況

#### 自治体の混乱

職員の安否・参集状況も不明

計画やマニュアルを知らない

殺到する電話対応でパンク状態

想定外の出来事が次から次へ

思うようにいかない被災状況の情報収集・共有  
情報の錯綜

ライオンが逃げたなど悪質なデマ情報が錯綜

電話では伝わりづらいリアルな現場

#### 避難者で溢れる避難所

最大11万人を超える避難者

約7人に1人が避難(市人口740,000人)

地域防災計画の想定では50,000人

前震時避難者数2万5000人から大幅増→ 前震時に食料や水を使い切っていた。

#### 混乱する避難所運営

職員の日交代代制による情報共有や被害者との信頼関係不足

多様な問題、トラブル対応に24時間対応する職員の疲弊

職員のスキルも対応もバラバラな避難所運営

職員便りの避難所運営形態

車中泊避難が続出

想定外の避難者数による避難所不足や、頻繁な余

震の恐怖に多くの避難者が車中泊やテント泊へ

車中泊避難者の把握・支援は困難を極める。

#### 受援体制の混乱

支援を受ける側の受援体制が整っていなかった。

公助の限界

避難所の鍵を持っている先生と翌朝まで連絡が取れない。

全く足りなかった備蓄物資

避難所へ届かない支援物資

### 5. 復旧・復興に向けた取組

#### (1) 復興に向けた組織の新設

(2) その他プロジェクトチーム等による対応

(3) 被災者の支援相談のためのワンストップ窓口を開設

(4) 震災復興計画の策定(H28.10.14)

(5) 地域支え合いセンターを中心とした生活再建支援

(6) 住まい再建支援

### 6. 復旧・復興の現場と取組

令和3年12月末時点で応急仮設住宅等入居世帯数は0世帯となった。

着実に復興が進んでいるものの、引き続き、恒久的な住まいへ移行した後の健康支援や孤立防止など、被災者の生活再建に向けたトータルケアに取り組んでいく必要がある。

また、防災減災のまちづくりや記録と記憶の伝承にも取り組んでいく必要がある。

## 7. 今後の取組

被災者の生活再建に向けたトータルケア

### (1) 切れ目のない生活再建・健康支援

2020年7月より応急仮設住宅と退去世帯を対象とした「生活・健康調査」を実施

継続的な支援が必要な方については、各区の保健福祉部署が各種機関と連携し、通常体制の中で引き続き切れ目なく支援していく。

### (2) 被災住宅の復旧

熊本地震では多くの田口も被害を受けたことから、被災田口を復旧支援を行っている。

液状化被害を受けた地区の再度被害防止の公共工事については、引き続き、早期復旧に向けた取組を進めていく。

### (3) 心のケア

小中学校における児童生徒の心のケアの体制を充実し、一人ひとりの心身の健康と「心の復興」に向けた取り組みを行っている。

### (4) 防災・減災のまちづくりと記録と記憶の伝承

#### 1) 校区防災連絡会・避難所運営委員会の設置

#### 2) 校区単位での「震災対処実働訓練」の実施

本市の災害対応力の向上と熊本地震の教訓の継承を図ることを目的として、市民や地域、警察や自衛隊等の防災関係機関、協定企業等と連携した訓練を毎年実施。

#### 3) 防災教育の推進

熊本地震の教訓を盛り込んだ副読本の活用や教育委員会、自治会、まちづくりセンター、PTA等と連携した「体験型防災学習」による防災教育の推進

#### 4) 震災対応の記憶をつなぐ「震災記録誌」の活用

熊本市地震の災害対応で参考になったのは、神戸市・仙台市等被災自治体の体験

本誌において、熊本地震の経験を次世代に伝承するため、「熊本地震災害記録誌」を発刊し、他市の災害対応に活用するとともに、新たな災害の備えとしている。

## 6. 考察

那須の豪雨、東日本大震災を経験している那須塩原市ではあるが、熊本市が襲われた災害は震度は大きく短期に2度の地震に襲われており、那須塩原市に比べ人口が多い熊本市としての行政の対応は大変なものであったと感じた。

災害大国と呼ばれる日本では、国や自治体をあげて災害対策が行われている。

非常時にすぐに行動がとれるよう、災害対策基本法などの法整備によっても減災が講じられている。

災害発生時に国と自治体が一丸となって地域住民を守るよう取り組むことが大切である。

自然災害については、どんなに技術が発達したとしても、人間の手ではどうにもできない問題である。このような、いつ発生するかわからない災害に備えて、市民の命、そして財産を保護するために自治体の日ごろから備えが大切である。

## 災害時の対応

自治体が災害時に対応すべき対策は、以下のようなものがある。

- ・災害対応体制の実効性の確保
- ・情報の収集、発信と広報の円滑化
- ・避難対策
- ・避難所等における生活環境の確保
- ・応援受入れ態勢の確保
- ・ボランティアとの連携・協働
- ・生活再建支援
- ・災害救助法の適用
- ・災害廃棄物対策

災害の規模にもよるが、対応が長期化することも考えられる。独立した災害対策本部事務室の確保をし、全庁で実施体制を確保する必要がある。

また、正しい情報収集は必須。これまでの災害時にも、不安な状況下で根拠のないうわさが本当のこのように伝播する事態が起こっている。自治体では、重要で正確な情報を確実に受信、そして発信できる機器を早急に確保していくことが求められる。それらの情報を分析し広報することと、住民からの問い合わせ窓口を一元化することが大切である。

さらに、避難勧告や指示の発令は必要に応じて遅れることなく行う必要がある。避難所での生活環境の確保も自治体の重要な役割となる。

自衛隊など応援の受け入れ体制や、ボランティアの受け入れも自治体が把握して策定していく必要がある。スムーズな連携ができるよう策定が必要である。

## 平常時の対応

災害は起きた時だけではなく、起きる前の対策が重要である。自然災害はいつ起こるからない。万が一に備えて準備しておくことで、減災を行うことが可能である。平常時には、以下のような対策が求められる。

- ・避難所と避難場所の確保
- ・防災マップの作成
- ・定期的な防災会議
- ・避難所の備蓄

まずは避難所の確保。また、高齢者や障害者など、災害時に避難する際に配慮を必要とする人の名簿をあらかじめ作成しておき、本人の了解を得たうえで消防や民生委員などの関係者に情報提供をしておくこと。さらに、防災マップを作成しておき、住民に普段から、避難場所やルートを周知しておく。定期的な防災会議を行うこと。また、避難所の備蓄の消費期限などのチェックを怠らないこと。

改めて、災害はいつ起こるかわからない。発災した時に備え平常時の対策が重要になる。地域住民と協働し、避難場所や避難経路の確認、訓練などを行う。また、災害が起き避難した後の救援物資の輸送路の確保なども、平常時に対策として重要である。

以上のことを今回の視察で学んだ。



- テーマ 新電力みやまスマートエネルギーについて
- 視察地 福岡県みやま市
- 視察日 令和4年7月13日(水)
- 報告者 眞壁 俊郎・金子 哲也



## 1. 地域新電力会社設立の趣旨

みやまスマートエネルギー(株)の設立は、2015年3月に地域活性化の手段として設立をした。

- ・自治体が抱える課題を「公共エネルギーサービス供給」により解決
- ・新しく生まれるサービスを根付かせ、みやま市に新しいビジネスを生み雇用が生まれ、経済を活性化させる

### 資本構成

出資額 2,000万円

- ・みやま市 1,100万円・筑邦銀行 57万円・みやまスマートエネルギー(株) 843万円となっており、みやま市が出資している第三セクターです。

## 2. エネルギー地産地消の経緯

みやま市は、約16年間塩漬けの土地(10ha)を地域内経済循環への取組みの初めとして、市外の大手企業ではなく、市内商工業者への呼びかけによる特別目的会社(SPC)株式会社みやまエネルギー開発機構(市も一部出資約20%)を設立し、メガソーラー施設5,000kwを2013年7月に稼働させた。

2014年に国の関係7府省が共同で募集するバイオマス産業都市として認定され佐賀市、佐伯市と共に九州で初めて選出された。2018年12月にバイオマス施設みやま市バ

イオマスセンター・ルフランを本格稼働させた。

## 3. みやまスマートエネルギー(株)の現状 令和3年度実績

①管理運営の体制および実施に関する事項  
・従業員内訳 役員監査役6名 社員20名  
契約社員・パート10名 計36名

### ②収支

・売上額16億9,876万円となり経常利益22,395千円単年度黒字

### ③電力事業

・年度末の電力契約量は48,491kWとなり、全国の電力事業者561社中200位。自治体新電力60社中4位。

### ④生活支援事業

・8月豪雨の際には、社会福祉協議会及び山門青年会議所と連携し、一人暮らしや高齢者で被災された方の支援に従事した。また、高齢者の方などで新型コロナワクチン接種の予約が困難な方に対し、無料の予約サポートを実施した。

### ⑤さくらテラス事業

コロナ禍により厳しい年度となったがいち早く感染防止認証を取得することで安全安心なスペース確保に努めた。山門高校と連携を図り高校生レストランを実施した。6次商品化の開発については、さくらハウス単独での検討に加えて、市の6次化推進地域協議会に加入して市や地域事業者と連携した開発に取り組んだ。

### ⑥資金の借入その他の資金調達の状況

・借入金額合計 3億4,192万円(通常運転資金・長期運転資金・設備資金)

### ⑦対処すべき課題

#### ・経営方針

市民生活の基盤となる電気を取り扱う第三セクターとして、安定的で持続可能な事業運営が最も重要と考えている。債務超過の解消に向け、収益を安定させることを第一目標とする。

#### ・重点課題

i. 市場リスクの少ない相対電源の調達に努めること。安定的な地産エネルギーの獲得を最重要課題として推進する。

ii. 顧客である市民の皆さまと直接繋がりがあ  
る強みを生かし事業所や家庭における脱炭素

化の実現に向けて取り組む。

iii. さくらテラスは、市内において希有なコミュニティスペースであり、市民やまちづくりに関わる皆様から高い期待を寄せられている。人々がより集いやすい中核施設を目指し、市と連携を図りそのあり方について検討と改善を進める。

iv. 卸電力市場の急騰による債務超過の解消に向けて、5か年の中期計画及び市の第三セクター等経営健全化方針に従って、着実な債務解消に取り組む。



那須塩原市は、令和4年4月27日に那須野ヶ原グリーンプロジェクトの実行体として、地域の経済と再生可能エネルギーの循環装置となる・長く地域に貢献し続ける企業となるために、リスクを抑えた安定経営を実施する・将来の那須野ヶ原を担う世代のために、地域関係者を巻き込んだ環境意識醸成活動を展開する。をコンセプトに掲げ官民連携の体制を活かし、地域の課題解決を目的とする事業モデルの構築を目指し地域新電力会社「那須野ヶ原未来電力株式会社」設立しました。今、地域新電力は、昨年1月の電力不足により卸電力市場の歴史的な高騰、ロシアによるウクライナ侵攻によるエネルギー資源の高騰など大変厳しい状況が続いている。那須塩原市が目指す地域新電力の姿は、地域経済循環・地域脱炭素化の地域での担い手になることである。そのために一番重要なことは、地域企業とのネットワーク構築や環境・エネルギー部門での専門性の高い人材の育成や確保であると考えている。以上報告といたします。

## 白糸第一自治振興会のむらづくりについて

視察地 熊本県 山都町

視察日 令和4年7月14日(木)

報告者 小島 耕一



### 山都町の概要

熊本県山都町は、熊本県の東部、九州の中央に位置しており、人口1.5万人、面積544km<sup>2</sup>である。

標高約200~900mの順高冷地気候を活かしたトマト、キャベツ、ピーマン等の夏野菜産地であり、日本一の有機農業のまちである。

江戸時代後期に、惣庄屋であった布田保之助が白糸台地に水を送るために作った通潤橋という水路橋で有名である。

### 白糸第一自治振興会の概要

令和3年の農林水産祭で白糸第一自治振興会は、むらづくり部門で天皇杯を受賞した。白糸地区は、9集落からなり総世帯数174戸、農家数80戸で、棚田・通潤用水の維持管理活動を基礎として、平成18年にむらづくりをすすめる白糸第一自治振興会を立ち上げた。平成22年に白糸台地の全域が重要文化的景観に選定されたことをきっかけに、地域の再発見と現状把握を目的としたワークショップを実施し、自発的な景観維持活動が活発化した。また、幻想的な白糸棚田のみずあかりを開催して重要文化的景観のピーアールを行った。平成24年には全国棚田千枚田サミットのパ

ネリストになるとともに、現地視察を受入れることにより、地域づくりが本格化した。

### 棚田米のブランド化と販路開拓

棚田米の販路開拓を目指し「通潤橋 水ものがたりの会」という出荷協議会を設立し、「通潤橋 水ものがたり(棚田米)」を商標登録し、販売を開始した。また、米袋のデザインについては女性部の意見を取り入れた。

平成27年には、ふるさと納税の返礼品になるとともに、大阪のデパートで販売されるとともに、東京の熊本郷土料理店や県外飲食店、JR九州のお歳暮として取り扱われた。

この販売により、1俵1万8千円で販売できるなど、米生産農家の収益増につながった。

### 都市と農村との交流

棚田サミットを契機に都市と農村との交流が加速化し、収穫感謝祭や棚田ウォーキングには100名以上の参加者があり、交流が図られた。

また、山都町の有志が自費出版した「通潤橋 水が渡る橋」という絵本が、2017年に道徳教科書に採用され、全国の小学校で愛用されている。

### 熊本地震後の棚田復興プロジェクトの立ち上げ

熊本地震によって通潤橋や棚田が壊れたことから、平成28年から令和3年にかけて25回のボランティア400名が復興に力をかしてくれた。このボランティアとの交流は新たな発展を生んだ。

### 移住者や若い女性が生き生きと活躍

有機農業を核とした有機的な繋がりが広がる町の実現をテーマに新規就農者の技術習得

の支援や移住者にふるさとの味の伝承を行うことにより、平成27年から令和2年にかけて63世帯124名が山都町に移住した。

町では、有機農業、食育、ジビエ、エコライフなどを構想とした、SDGs未来都市を宣言し、国の「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。

#### 企業のCSR活動の受入と新たな取組

震災復興の交流の中で、サントリー、ラッシュ、ロクシタン等の企業のCSR活動(企業のボランティアや寄付活動、環境保護活動)を積極的に受け入れ、棚田の保全や通潤用水の泥さらいなど、高齢化で作業が行き届かない対策に支援を受けている。

また、地域への愛着を高めてもらうために、ひとり一本の植樹参加を呼び掛ける「百年の森」計画も進行中である。

#### 所見

全国農林水産祭むらづくり部門の天皇杯を受賞した白糸第一自治振興会がどうしてこのような活動ができたのかを明らかにするために今回の調査を行った。

第1には、通潤橋を作ったという歴史と魂が住民に流れていることから、それを誇りに思い、棚田という作業性の悪い水田の維持に地域みんなが取り組んでいることから、新たなむらづくりが生まれてきた。

第2には、むらづくりは人づくりというように、様々な魅力を持った人たちが活躍している。また、何かをやろうという人を持ち上げる組織力が高いと感じた。

第3には、災害もそれを克服するときに団結力が生まれる。熊本地震や大水害で大きな被害を受けても、その復興に取り組むことで、交流が生まれ、団結心が高まり、新たな取組につながっている。

第4には、ものがたりにすることによって、お互いの共通意識を醸成することができ、みんなが同じ方向に向いて活動できる。

第5に、女性や若者の活躍によって、新たな地域づくりが生まれる。食は、ひとのつながりの基本であり、祭りには食と酒は欠かせない存在である。

このような地域づくりを支援する市町村の取組を聞いたところ、市町村が積極的に取り組んでいることはほとんどなく、住民の方々が取り組みたいことを支援することによって、地域が活発に活動したとのこと。

地域のリーダーによれば、わが町では、集落づくりの支援が補助金ではなく、何に使ってもよい交付金なことから、私たちは地域のために効果的に使用できると話していた。

地域住民と町の信頼関係が高いことから、町では安心して会計を住民に預けている。これも地域力が高いことを表しており、住民みんなが住みやすい地域づくりに努力している証拠であろう。

本市においても、那須疏水に込められた地域力を今後も伸ばす必要があると考えることから、地域づくりに関する研修の必要性を感じる場所である。

